

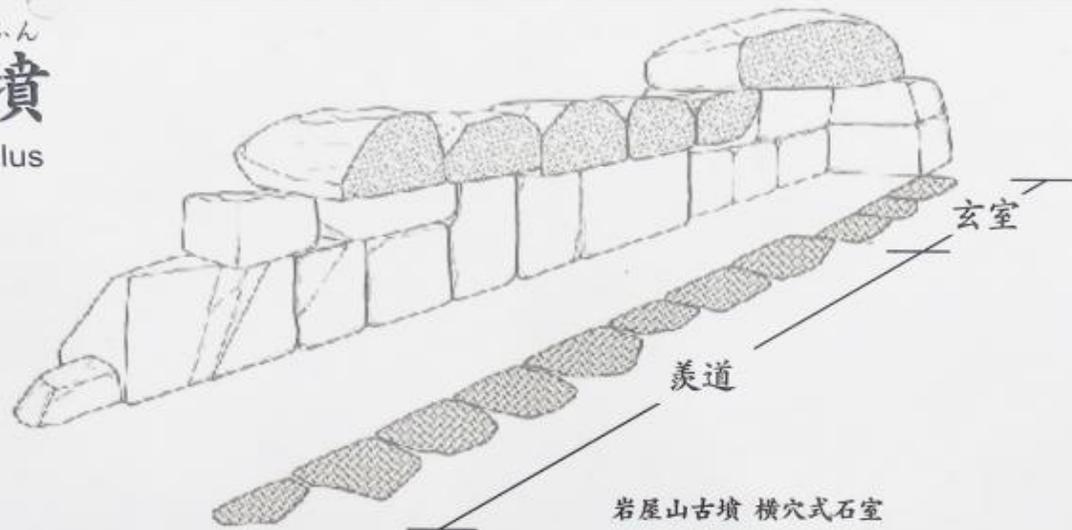
岩屋山古墳(高市郡明日香村)

前方が岩屋山古墳/2段築成の方墳/7世紀前半頃の築造/標柱と説明坂が立っている/南側から見たところ



この石室は全て切石加工された日本でも最も精美な石室のひとつであり、「岩屋山式石室」と云う石室編年の標識の一つとなっている

し せき いわ や やま こ ふん
史跡 岩屋山古墳
Historical Site Iwayayama Tumulus



岩屋山古墳は、7世紀代の一辺約54m、高さ約12mの方墳と推定されており、墳丘の西半分は現在失なわれている。石室は南面に開口する横穴式石室で、花崗岩の切石を用いて構築されている。石室の規模は全長約16.7m、玄室は長さ約4.72m、幅約2.7m、高さで、側壁、奥壁二段に切石を積み、下段はほぼ垂直に上段は内側に傾斜している。

羨道は、長さ約12m、幅約1.9mで、入口側の側石は二段積みとなる。羨道南端の天井石には閉塞施設のための溝が切り込まれていることや、一段高くなっていることにも特徴がある。また玄室南側の床面には、集水のための円形の掘り込みがあり、ここから、羨道のほぼ中軸に並行して排水溝が設けられている。

The Iwayayama Tumulus is assumed to have been a square burial mound 54m on each side and about 12m high from the seventh century, but most of the soil from the western half of the mound has disappeared.

The stone chamber opens to the south through a horizontal entrance corridor, and was built with dressed granite stones. The stone chamber is about 16.7m long overall, with the burial chamber about 4.72m long, 2.7m wide, and 2.6m high. The side and innermost walls have two steps, with the lower step nearly perpendicular and the upper step slanted inwards.

The passageway to the burial chamber is about 12m long and 1.9m wide, with two steps on the side stone by the entrance. The ceiling stone at the southern end of the passageway has a groove cut into it for sealing the chamber, and is also raised one step. The floor of the south side of the burial chamber has a circular depression for collecting water with a duct for draining the water nearly parallel the central axis of the passageway.

明日香村

下段テラス面に横穴式石室が開口している/墳丘西側(左手)は失われている



これが南面する横穴式石室/中に入ってみよう



羨道南端の天井石には閉塞施設のための溝が切り込まれていることや、一段高くなっていることに特徴があると云う/玄関南側の床面には集水のための円形の掘りこみがあり、ここから羨道のほぼ中軸に並行して排水溝が設けられているらしい



羨門部の天井石には一条の溝が彫られており、外から天井石に伝わった水が石室内に入ることなくこの溝の部分で遮るように工夫がなされている/いわゆる水切りの役目



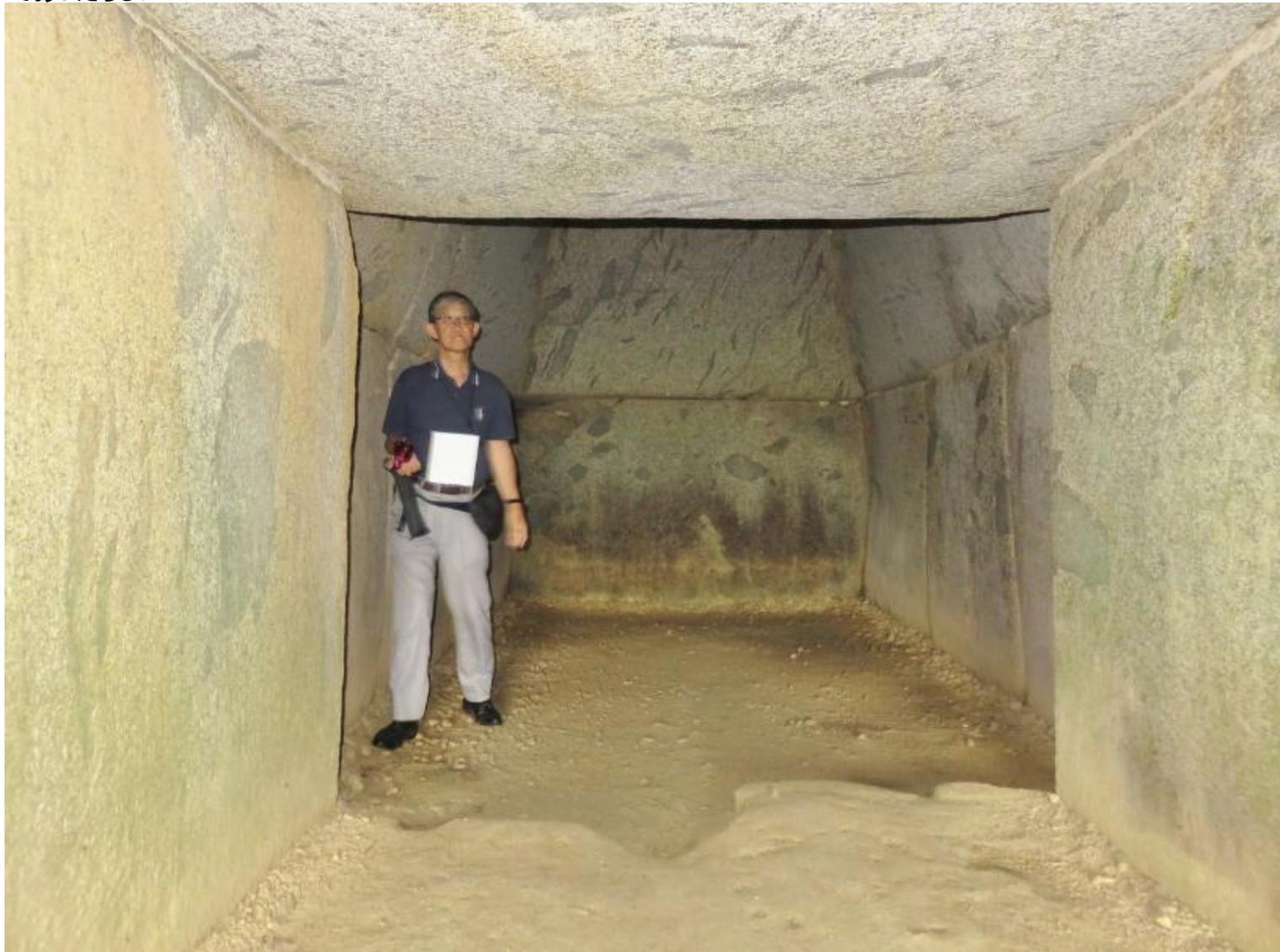
羨道の奥の部分の天井石が一段低くなっている/入口側の側石は二段積みで、一段天井が下がった所からは一枚岩の花崗岩の切石を用いて構築されている/両袖式の横穴式石室



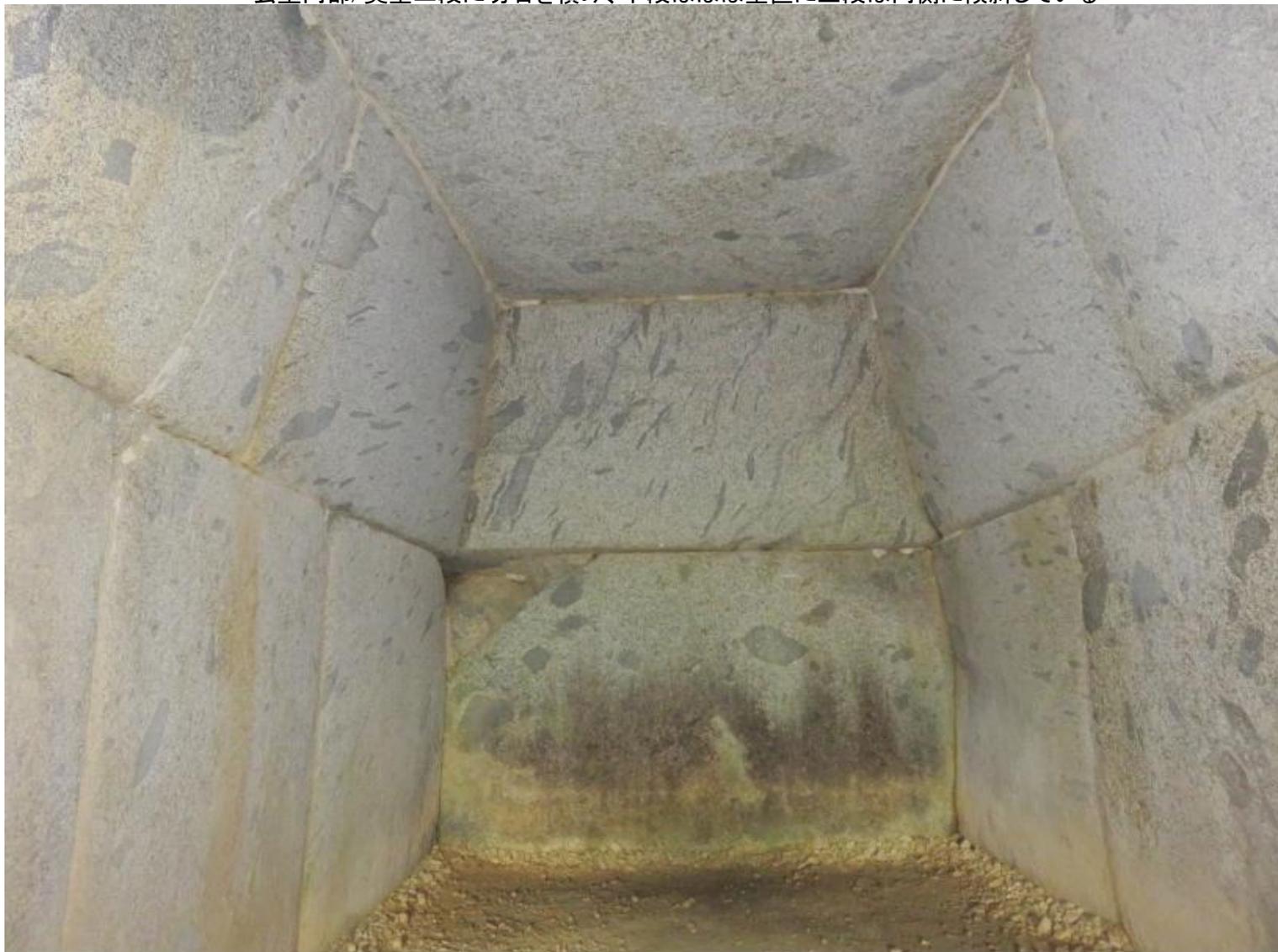
石積みの隙間は漆喰のようなものでしっかりと埋めてある



正面は玄室/玄門付近から径1m、深さ0.8mの穴が見つかり、中には砂利が詰まっております排水用の集結穴で排水と湿気抜き設備であったらしい



玄室内部/奥壁二段に切石を積み、下段はほぼ垂直に上段は内側に傾斜している



振り返って入口方向を見たところ



玄室内の礫敷、羨道の暗渠の床排水施設部分を見たところ



床から天井までの一枚岩が並ぶ羨道の側壁



さて、墳頂に登ってみよう



墳丘は版築で築かれており、下段テラス面には礫敷が施されていた/下段テラス面を見たところ



ここが境頂



東方向を見るとすぐ近くに近鉄の線路が見える/正面前方には欽明天皇陵古墳(梅山古墳)が見える



これは横穴式石室の真上から入口を見たところ



同じく横から見たところ



東側から見た墳丘



近づいて南東側から見たところ



参考ホームページ

https://asukamura.jp/chosa_hokoku/iwaya/iwaya.html

<http://small-life.com/archives/13/11/0520.php>

<http://massneko.hatenablog.com/entry/2016/03/07/183000>

<http://small-life.com/archives/13/11/0520.php>

https://74589594.at.webry.info/200906/article_12.html

<http://inoues.net/club4/162kai1.html>

https://blogs.yahoo.co.jp/tsigu183/15270711.html?_vsp=5bKp5bGL5bGx5Y%2Bk5aKz77vI6auY5biC6YOh5piO5pel6aaZ5p2R77vJ

<http://blog.livedoor.jp/myacyouen-hitorigoto/archives/47041251.html>

